SUPERBIKE EXPRESS EXtra, EXpert and EXtreme

SUPERBIKE EXPRESS 2017 07

JSB1000 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE
OFFICIAL REPORT

野左根航汰が2戦連続ポールポジション!
カワサキのホームコースで静かな闘志を見せる渡辺一馬
中須賀克行、高橋巧、津田拓也も勝利を狙う!!

全日本ロードレース選手権は、前戦に続きスーパーフォーミュラとの2&4レースとなり、最高峰クラスのJSB1000クラスのみの開催となる。6月の第5戦に続き2度目となるオートポリス。不安定な天候に悩まされた前回とは打って変わり、今回は、金曜から日差しは強いものの、湿度が低いさわやかな天気に恵まれた。ただ、金曜日の1本目は、前日の雨の影響でハーフウエットからスタート。セッション中盤から、ようやくドライとなるコンディションだった。2本目は、完全にドライとなり、ただ一人、1分48秒台に入れトップにつけたのが渡辺一馬だった。渡辺は、今シーズンよりKawasaki Team GREEN入りし、エースとしての活躍が期待されている。シーズン前半は、カワサキのマシンを理解することに費やし、鈴鹿8耐を経て、ようやく自分の望んでいるセットができて来たと語る。オートポリスは、カワサキのホームコースであり、データがそろっていることから、初日から好調な走りを見せていた。

一方、第5戦オートポリスで優勝している中須賀克行は、初日5番手と思うようにタイムを詰められないでいた。これは、今シーズン大きな課題となっている17インチタイヤとの相性を改善することなのだが、16.5インチのフィーリングをどうしても求めてしまっていた。鈴鹿8耐では、16.5インチを使えたことも前戦でトップを走りながら転倒してしまった要因となったと言えるだろう。方や、チームメイトの野左根航汰は、第5戦オートポリスを世界耐久選手権に参戦するために欠場していたが、事前テストには参加しておりトップタイムをマーク。コースとの相性はよく連勝を狙っている。

土曜日は、金曜日に比べれば雲が多かったが、上々のコンディションの中、公式予選が行われた。今回もノックアウト方式だが、30分のQ1で全車が走行し、その上位10台がQ2に進出、15分のセッションでポールポジションが争われた。Q1で早々に1分48秒689をマークした野左根がリーダーボードのトップにつけ、中須賀が1分48秒734で2番手とYAMAHA FACTORY RACING TEAMが1-2を独占。高橋巧、渡辺一馬と1分48秒台で続き、ダンロップユーザーの浦本修充が5番手と健闘。以下、津田拓也、藤田拓哉、濱原颯道、山口辰也と続きQ2に駒を進める。モリワキの高橋裕紀は、僅差で11番手となりQ2へ進出できなかった。今回もピレリは、新スペックのタイヤを投入したが、前回の方が相性がよかったようだ。酒井大作は、今回もスタンダードのBMW S1000RRで好タイムをマークしている。

そして今シーズン、Kawasaki Team GREENから初登場の柳川明は、13番手につけた。柳川は、昨シーズン大ケガを負い、今シーズンは、ワールドスーパーバイク仕様のZX-10RRのテストをオートポリスで主に行っていた。JSB1000仕様とは、マシンもタイヤも違うだけに、このレースウイークでどれだけセットを詰めることができるかが上位進出へのカギとなるのは間違いない。オートポリスでは、何度もトップ争いを繰り広げながら勝てないでいる柳川を応援する声は、地元だけに大きい。その声援を力に追い上げのレースを見せてくれるかもしれない。

15分で争われたQ2は、ほとんどのライダーがセッション序盤にタイムアタック。その中で野左根が、ただ一人1分47秒台に入れる1分47秒841をマークし、2戦連続ポールポジションを獲得した。2番手に好調な渡辺がつけ、17インチタイヤに手こずりながらも中須賀が3番手につけた。高橋巧、津田も僅差で続いておりトップ争いを繰り広げそうだ。9番手ながらアベレージがいいのが松崎だ。松崎は、今シーズンKawasaki Team GREENに抜擢されたJSB1000ルーキー。経験豊富なベテランが多い中、時には完膚無きほど痛めつけられたレースもあったが、ここオートポリスは、渡辺と同じく一番走っているコースだけに、初めてトップ争いに加わってくる可能性があるだろう。

レースの行方と共に、タイトル争いにも注目したいところだ。現在、津田をトップに、5ポイント差で高橋巧が、7ポイント差で渡辺が追っている。今回のオートポリスラウンドを入れ、残りは3戦4レース。津田は、今シーズン初優勝を、高橋巧は、ワールドスーパーバイクスポット参戦前に弾みを、渡辺は、カワサキのホームコースで勢いをつけ、それぞれゼッケン1を目指したいところだろう。19周で争われる決勝レース。最終ラップのファイナルコーナースタンドからホームストレートにトップで現れるのは、誰だ!?

Text & Photo：Toshihiro Sato / Issued by SUPERBIKE.JP

JSB 1000 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE
RESULT & INTERVIEW

ポールポジション：1'47.841
#5　野左根 航汰　YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5

『前回のオートポリスラウンドは、世界耐久選手権参戦のために出られませんでしたし、初めてオートポリスでポールポジションを獲れたので、すごくうれしいです。ベストタイムは、Q2の計測2周目に記録したのですが、自分自身でも予想以上のタイムでしたし、力を振り絞って出したので、これ以上は、出せないと思っていました。その後は、追い付かれるかとヒヤヒヤしましたが、トップのまま終われてよかったです。決勝は、もてぎとは違ったレース展開になると思いますし、難しい戦いになりますが精一杯走るだけです。逃げるのは難しいですし、混戦になるはず。タイヤにも厳しいと思うので、うまくマネジメントして行きたいですね』

予選2番手：1'48.298
#23　渡辺 一馬　Kawasaki Team GREEN

『オートポリスは、カワサキのバイクでは一番走り込んでいるコースなので、金曜日からいいフィーリングで乗れていました。予選では、タイムを出し切れず、2番手に終わってしまい悔しいですが、フロントロウにつけられたので、よかったと思います。データも見直して課題は明確にあるので、それがクリアできれば、いいレースができるはずです。19周、みんな速いので、難しいレースになると思いますが優勝がプレゼントできるように精一杯頑張りたいですね』

予選3番手：1'48.507
#1　中須賀 克行　YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『チームメイトの野左根選手が非常に速いので、負けじとアタックしましたが、一歩も二歩も及びませんでした。今シーズンは、なかなかチェッカーを見られていないので、まずは予選のチェッカーを見ようと頑張りました。前回のオートポリスラウンドは、天候も難しかったですし、身体も本調子ではありませんでした。それに比べれば、金曜は手こずりましたが、今回は調子いいと言えると思います。チャンピオンシップでは厳しい状況ですが、決勝はファンの皆さんに楽しんでもらえる走りを見せたいですね』

公式予選結果

●予選：9月9日（土）天候／晴　路面／ドライ　出走35台
●決勝：9月10日（日）レーススタート／10:20（19周）

Pos.	No.	Rider	Type	Team	Best Time
1	5	野左根 航汰	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM #5	1'47.841
2	23	渡辺 一馬	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'48.298
3	1	中須賀 克行	YZF-R1	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	1'48.507
4	634	高橋 巧	CBR1000RR SP2	MuSASHi RT HARC-PRO. Honda	1'48.522
5	12	津田 拓也	GSX-R1000R	ヨシムラスズキMOTUL	1'48.618
6	9	藤田 拓哉	YZF-R1	YAMALUBE RACING TEAM	1'49.267
7	104	山口 辰也	CBR1000RR SP2	TOHO Racing	1'49.418
8	50	濱原 颯道	GSX-R1000R	ヨシムラスズキMOTUL	1'49.578
9	46	松﨑 克哉	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'49.893
10	94	浦本 修充	GSX-R1000	Team KAGAYAMA	1'50.217
***** 以上 Q2 TOP10チャレンジにて決定 *****					
11	72	高橋 裕紀	CBR1000RR	MORIWAKI MOTUL RACING	1'49.998
12	39	酒井 大作	S1000RR	Team Motorrad39	1'50.131
13	87	柳川 明	ZX-10RR	Kawasaki Team GREEN	1'50.405
14	71	加賀山 就臣	GSX-R1000	Team KAGAYAMA	1'50.717
15	18	近藤 湧也	YZF-R1	JOYNET GBSレーシングYAMAHA	1'50.743
16	88	清成 龍一	CBR1000RR	MORIWAKI MOTUL RACING	1'50.783
17	32	今野 由寛	GSX-R1000	MotoMap SUPPLY FA	1'51.303
18	85	中冨 伸一	YZF-R1	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	1'51.442
19	090	秋吉 耕佑	CBR1000RR	au&テルル・Kohara RT	1'51.516
20	13	中津原 尚宏	CBR1000RR	オートテクニックスポーツPGR	1'51.829
21	29	小島 一浩	CBR1000RR	Honda熊本レーシング	1'51.982
22	47	上和田 拓海	YZF-R1	Webike チームノリックヤマハ	1'52.346
23	34	岡村 光矩	ZX-10RR	KRP三陽工業&RS-ITOH	1'52.462
24	28	吉田 光弘	CBR1000RR	Honda熊本レーシング	1'53.236
25	080	渥美 心	CBR1000RR	UQ&テルル・Kohara RT	1'53.363
26	16	児玉 勇太	S1000RR	TONE RT SYNCEDGE 4413	1'53.535
27	70	清末 尚樹	ZX-10R	豊後なしかレーシング倶楽部	1'53.684
28	43	須貝 義行	RSV4 RF	チームスガイレーシングジャパン	1'54.102
29	82	原田 武人	ZX-10RR	ZAP★Racing823&TERAO	1'54.254
30	84	田村 武士	GSX-R1000	テイクアップ OIRF	1'54.258
31	59	荒瀬 貴	YZF-R1	TEAM IZUMI with マッハ車検	1'54.898
32	41	樋口 耕太	GSX-R1000L7	H.L.O RACING	1'55.665
33	77	東村 伊佐三	ZX-10RR	チーム阪神ライディングスクール	1'55.965
34	53	北折 淳	CBR1000RR	Honda緑陽会熊本レーシング	1'56.054
35	49	原田 洋孝	ZX-10R	RS-ガレージハラダ姫路	1'58.098

***** 以上予選通過基準タイム（1'59.622 - 110%）*****

Q1: StartTime:12:20'00／FinishTime:12:50'00
Q2: StartTime:13:00'00／FinishTime:13:15'00
※注：タイムは、Q1、Q2、それぞれのセッションでのタイム順です。

チームのホームコースでクラス初勝利を狙う予選2番手の渡辺一馬

INFORMATION

RIDE & DRIVE　全てのモータースポーツファンに向けてレースをお届けします！

全日本ロードレース全戦が無料BS放送のBS12（番組名「RIDE&DRIVE」で放送されます！ 放送時間はレース6日後の土曜日、27:00～27:54
★詳しい放映スケジュール等はファンサイトで！

■全日本ロードレース選手権第7戦
オートポリス2&4レース放映スケジュール
9月16日（土）　27:00～27:54

BS12 TwellV

インターネットライブ中継&動画配信も充実!!
MFJ Live CHANNEL
サーキットの場内監視（ポスト）映像に外部カメラ映像をプラスし、「MFJライブチャンネル」にて配信。中継配信がより充実しました。※通信環境によりディレイ配信となる場合もあります

YouTube　YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信！

詳しくはファンサイトで → http://superbike.jp/